

今、考えるべきこと

静岡市立安東中学校

三年 濁澤 美羽

北朝鮮の拉致問題について、貴方はどう考
えているだろうか。私は、この問題が過去の
こととならないように、もっと沢山の人が関
心を探めるべきだと強く感じている。

私が拉致問題に興味を抱いたのは、今年六
月に報じられた横田滋さん逝去のニュースを
目にしたときのこと。四十二年前に北朝鮮に

拉致された娘、横田めぐみさんとの再会が叶
わなかつたことを知った。拉致が発覚してか
ら約十八年。拉致被害者帰還を求める人々の
シンボルといわれていた滋さんのことを知り、
自分もなにかしなければという強い衝動に駆
られたのだ。

「行、てら、しやい。」最後に交わしたのは
いつもと何ら変わりない言葉。約二十五分間
のアニメに詰め込まれた拉致問題の実態は、
想像を絶するものだ。アニメ「めぐみ」

は滋さんと毒の早起江さんの話を元に作成されて
いる。映像を見ていて何度も感じたのは、
胸が締めつけられるような苦しさだった。

「声どころか、身体中身動きが取れないよ
うな状況にされて、押さえつけられて。暗く
なっ、てから船に乗せられたというのが拉致の
実体です」。被害者の一人である運池薫さんは
インタビューで当時の状況をこう語っている。
中学一年生で被害に遭っためぐみさん。拉致
された当時の年齢が自分と近いこともあり、

もし自分の身に起こったら、と恐怖に身震
いした。当たり前だったはずのめぐみさんの
日常は、たった一瞬で崩れてしまったのだ。

私が一番驚いたのは、問題の発覚に約二十
五年もの時間を要したことだ。その間なんの
手掛かりもない状況で、めぐみさんの帰りを
待つことしかできない悲しみは家族以外の誰
にも分かりえないものだった。

「行方不明」から「拉致問題」に一度した
のは、私たちが生まれる三年前の九月十七日

の日朝首脳会谈でのこと。北朝鮮は拉致を認め謝罪した。そして翌日には五人の被害者が帰国。様々は葛藤の中で、娘の帰りを信じて活動する滋さんにとっても一筋の光と化した。はすた。

現在に至るまで、拉致問題に大きな進展は見られていない。私は今、この問題が風化しつつあるのではまいいかと感いている。横田めぐみさん一家の再会が叶わなかった今だからこそ、私たちはこの問題をもちと重く捉える

べきではないか。昔々の話として片付けるのではなく、今レどうなっているのか関心をもつこと。学んだことを他の人に伝え繋ぐこと。今の私にできることは本当に小さなことかもしれない。でも私は信じている。些細な行動が未来を明るくするための材料となる日がかかることを。拉致問題に対する関心が強まり、一刻も早く問題が解決することを強く願っている。